

非核平和学習会に参加して思ったこと、感じたこと

8月5日、6日に非核平和学習会で広島に行ってきました。そこで私が学んだことは二つあります。

一つ目は、核兵器のおそろしさです。核兵器という一つのばくだんだけで、一つの町が無くなるなんてとてもひどい事だと思っただし、何万人もの命が無くなるのもひどいことだと思いました。

二つ目は、核兵器をつかってはいけない理由です。私がつかってはいけないと思ったわけは二つあります。

一つ目は、大ぜいの人が亡くなったという事です。

二つ目は、いくつもの町が消えてしまっています。大切にされてきたもの、町に住んでいた人の思い出まで、消されてしまいます。

非核平和学習会に行って学べたことはたくさんありました。もっとたくさんの人に、戦争をやってはいけない理由、おそろしさを知ってもらいたいです。



大迫小学校5年 阿部 叶愛 さん



# 花巻市は非核平和都市宣言のまち

## 平和の尊さを学んだ子どもたちを紹介します

原爆の子の像(広島市・広島平和記念資料館)

本市は、全ての核兵器の廃絶と軍縮が推進されることを強く願い、平成18年3月に「非核平和都市」を宣言しました。

市では、この宣言の理念を推進し、市民の皆さんの非核平和に対する意識の醸成を図るため、さまざまな活動を行っています。

### 非核平和学習会を開催しました

私たち一人一人は、原子爆弾投下の様子や被爆体験などを認識するとともに、若い世代に伝え、核兵器のない、戦争のない平和な世界の実現に向けた意識の醸成を図る必要があります。

市では、市内の小学生を対象に



### 非核平和都市宣言 (平成18年3月13日議決)

世界の恒久平和は、人類共通の願いです。

しかし、今なお、世界各地では悲惨な戦争があとをたたず、また、核兵器の存在が人類の生存と平和に大きな脅威をもたらしています。

私たちは、世界で唯一の核被爆国民として、地球上で二度と核兵器による惨禍を繰り返さないため、その悲惨さを全世界へ訴えていく重要な役割を担っています。

花巻市民は、日本国憲法の基本原理であり、人類共通の願いである恒久平和に向けて、非核三原則を遵守し、全ての核兵器の廃絶と軍縮が推進されることを強く願い、ここに「非核平和都市」を宣言します。

非核平和学習会を開催。8月5・6日に平和記念式典が行われる被爆地の広島市へ子どもたちを派遣し、平和の尊さについて考える学習会を行いました。

この学習会に参加した子どもたちの感想文の一部を紹介します。

子どもたちは、式典参加のほか、平和記念公園や平和記念資料館を訪れました。自分の目や耳で感じた原子爆弾の恐ろしさや戦争の悲惨さについて、自分たちの言葉でつぶっています。

皆さん子どもたちの言葉を聞いて、改めて平和の尊さについて考えてみませんか。



石鳥谷小学校6年 鎌田 灯真 さん

### 非核平和学習会で学んだこと

非核平和学習会に参加した理由は広島に落とされた原爆がどのくらい怖いものだったのかを知りたかったからです。

原爆ドームは外側しか残ってなく、いっしょんで建物を破壊するおそろしい核兵器だったことがわかりました。

資料館では、展示されている写真を見て、原爆は悲惨なことだと思いました。

特に印象に残っていることは、本川小学校のことです。自分の小学校の人数よりも多いことも達がその日のうちに死んでしまうなんて信じられなかったです。子ども達はわけが分からないまま死んでしまい、痛くて苦しい思いをしただろうし、夢をかなえることがなく死んでしまい悔しかったと思います。

広島市の記念ひには「安らかに眠って下さい 過ちは繰返しませぬから」と書いてあります。僕たちはこのことを守り、世界で起きている戦争をやめるように言っていかなければならないと思いました。



石鳥谷小学校6年 柳田 春樹 さん

### ほくができること

「ほくが出来ることは何だろうか？」毎年8月6日に広島で平和式典が行われていたことを新聞やニュースで見ました。8月6日は広島に原子爆弾が落とされた日です。このようなことが二度と起らないために、ほくには何が出来るかを考えていました。

原爆ドームは実際に目の前に立つと言葉が出ない思いでした。「原爆の子の像」を実際に見て、原爆が長い期間にわたって人を苦しめる恐ろしいものだと思いました。平和記念資料館では、「人影の石」などを見て原爆の恐ろしさを感じました。

式典の中で広島市長の「平和宣言」が心に残りました。誰かに求めるだけでなく、自分が出来ることを考える大切さを知りました。

今回の非核平和学習会に参加して僕のできることは、見てきたことをみんなに伝えること、一人一人が違う考えがあることを認め、お互いを尊重することだと思いました。



湯本小学校6年 居舘 龍 さん

### 戦争は想像以上に怖い

ぼくは、8月5日と6日、広島に行つて平和記念式典に参加してきました。多くの人々、一人一人が「世界が平和になって欲しい」「戦争や核兵器の悲劇を二度と起こしてはいけない」と願っていることを実感しました。

式典では、3人の方のスピーチが印象的でした。まっすぐにぼくの心に響きました。つながれた「いのち」への感謝と、一人一人の行動が大事、みんなを笑顔にしていきたいという願いを、強く感じました。

資料館では、78年たった今でも、どれだけひどい惨劇だったのかがわかりました。

式典の中で「ひろしま平和の歌」を歌いました。初めて聞く歌だったけれど、自然と体が動き、ぼくも、平和を祈る心と共に、歌っていました。みんなの歌声が、この空に響き渡るように、「平和の祈り」が世界を包みこんでいくことを願いました。



矢沢小学校5年 佐々木 楓夏 さん

### 忘れてはいけない出来事

今回広島に行つて、特に印象に残っているのが想像以上の被害の大きさです。

原爆ドームの中にいた職員約30名はしゅんかん的に亡くなってしまいました。何が起こったのか分からないまま亡くなってしまったのだと分かりきょうふに感じました。

原爆の子の像は折りづるを持った女の子の像で、モデルになったのが当時小学校6年生の佐々木さだ子さんです。さだ子さんは急に白血病になってしまい、病室で折りづるを作り続けた末、亡くなってしまいました。今の私くらいの歳のモデルだったと知って、まだまだやりたい事があるのにくやしかったと思ひ複雑な気持ちになりました。

人災はあってはいけない、誰もが悲しい思いをするだけ。人はそれぞれの考えを持っていますが人々がよりよえる国々であることが大事だと思います。力でなんとかしようとすることは絶対あってはいけないと思いました。

※掲載文は、非核平和学習会に参加した児童が書いた感想文の抜粋(原文ママ)です。全文は、市ホームページに掲載予定です